

# 銀の道探訪マップ⑥

## 三次市三良坂町〜甲奴町編



三次市吉舎町

三次市向江田町で、岡田の渡しを越えた輸送隊一行は、三良坂の町を過ぎ、吉舎に入っていく。吉舎は、世羅台地と三次盆地の接点として宿場町が形成され、輸送隊の馬替えと昼食休憩の場所となっていた。宿泊地として使われることも、しばしばあったという記録も残っている。吉舎から山越えの道となり、鍋割峠を越えると、甲奴町宇賀の里が見えてくる。宇賀は、「銀の道」笠岡ルートと尾道ルートの街道分岐点でもある。

- この区間の主な見どころ
- ・寺町摩寺跡
  - ・岡田の渡し
  - ・知波夜比古神社
  - ・奥家住宅
  - ・下素麺屋の一里塚跡
  - ・田中写真館
  - ・吉舎歴史民俗資料館
  - ・歴史の町並み
  - ・中山の一里塚跡
  - ・尾道・笠岡ルート分岐点
  - ・須佐神社
  - ・陣山墳墓群
  - ・六地藏
  - ・一字一石塔
  - ・古銀山
  - ・良神社
  - ・宇賀の辻堂
  - ・下野の道標



## 後鳥羽上皇伝説

後鳥羽上皇は、一二二一年に時の権力者北条義時を討つようとして失敗し、隠岐に流された。その時どのようなルートを通って配流されたか、いろいろの説がある。

吉舎にもその伝説があつて、後鳥羽上皇がここで一夜を明かした時に、「吉(よ)き舎(やど)りかな」と、言ったことが地名となったと伝えられている。町内の「良(うしろ)神社」には、後鳥羽上皇のご真筆の勅額があつたとも伝える。通説では、「后妃のために置いた私的な部署」のことを「私部(きさいべ)」と言い、これが地名のもととなったとされている。



良神社

## 庚申塚(こうしんづか)とは何か

「良(うしろ)神社」の境内に、「庚申塔」と記された石塔が残されている。平安時代、貴族の間で盛んに行われていた「庚申信仰」という宗教形態があつた。当時は「二ヶ月に一度巡ってくる庚申(かのえさる)の日に、人間の体に潜んでいるサンシという虫が、寝ている間に体を抜け出して、天帝の所まで行って行き、その人の悪行を告げ口しに行く」と信じられていた。そのためこの日には、サンシの虫が体から抜け出さないよう、身を清めて夜を明かすという風習があつた。この考え方は、やがて貴族社会から一般に広がり、庚申の行事が民衆の間でも行われるようになってきた。庚申塚や庚申塔は、その日に人々が夜を明かすため、みんなで集まる場所として建てられたものだ。



庚申塔



六地藏

## 六地藏の話

地藏はもともと、古代インド農耕民族の大地信仰をもとに、万物を育む母なる神として崇められていたものだ。これが仏教に取り入れられ、死後の世界にも救済の手を差し伸べてくれる菩薩として信仰を集めるようになった。人間はこの世の報いとして死後、地獄、餓鬼、畜生、修羅、人間、天上の六道の世界に生まれ変わるとされ、それぞれ六つの世界を担当する地藏菩薩が六地藏である。街道を歩いていると、村境や峠に置かれた六地藏には、危険な旅の道中を守ってほしいという人々の願いも込められている。

## 代官所役人の昼食

銀輸送隊の責任者には、大森代官所の手代クラスの武士二〜三名が任命されていた。一八一九年の「吉舎国郡志」に、その役人の昼食の献立表が載っている。それによると、

- |    |      |      |      |
|----|------|------|------|
| 刺身 | 鯛    | いりさけ | しょうが |
| 汁  | 川はえ  | 大根   | ごぼう  |
| 坪  | かまぼこ | 根ぶか  | にんじん |
| 平  | よし茸  | 里いも  |      |
| 台引 | 山のいも | せり   | 鴨    |
| 重引 | 海老   | くねんぼ |      |
| 吸物 | 水菜   | くり   |      |
| 猪口 | 蒸蛤   | 砂鉢   | 酢蛸   |
|    | 鮎の子  | うるか  | しょうが |

これにお酒、ご飯、香物、お菓子、お茶などがついて大変豪華なものだった。



この付近に昼食場所(御茶屋)があつた

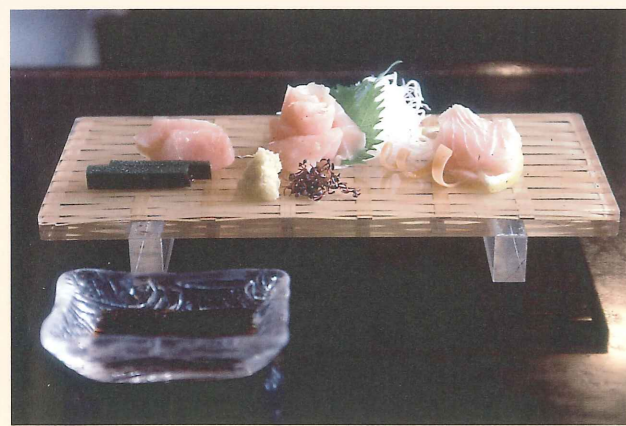
## ワニ食文化

ワニは鮫の古語で、鮫やエイの類は、アンモニア成分を体の中に蓄積させる性質があつて、捕ってから二〜三日たっても腐りにくい。昔は、交通事情が悪かった奥地でも、刺身として食べられる唯一の魚だった。



ワニ食文化を示す看板

この地方では、一〇月初めくらいから、村々で秋祭りが続く。秋祭りのご馳走に欠かせないのが「ワニの刺身」で、祭りの招待客には、腹が冷えるほどワニを食べてもらわないと、充分もてなしをしたことにならないという。正月にも、ワニは欠かせない。かつては、年末の大売り出しの時、シユモクザメがまるまる一頭、店先の雪の上になげ出されているという光景もあつた。このように、祭りや正月をはじめ、年間を通じてこの地域の人々は、約二〇種類のサメを食べているという。料理法は、刺身の他に、湯ぶきや煮こり、最近ではハンバーグにして食べる事例もある。



ワニの刺身

## 主な連絡先

- |                          |              |
|--------------------------|--------------|
| 三次市三良坂支所                 | 0824-44-3111 |
| 三次市吉舎支所                  | 0824-43-3111 |
| 吉舎歴史民俗資料館<br>美術館あーとあい・きさ | 0824-43-2231 |
| ロードサイドミュージアムXa104        | 0824-43-3122 |

## 銀の道関連ホームページ

- みち紀行 温泉津から尾道笠岡へ 三良坂町  
<http://www.chugoku-np.co.jp/tokusyuu/mitikikou/m020811.html>





**①寺町廃寺跡**  
平安時代に書かれた「日本霊異記」の三谷寺ではないかとされる。大規模な伽藍だったことが確認されている。(国指定史跡)



**②岡田の渡し**  
江戸時代初期、街道は馬洗川沿いの難所を北寄りに迂回して通り、この岡田の渡しで川を渡り三良坂に入っていた。



**③一字一石塔**  
南無妙法蓮華經の名号石と共に、一字ずつ刻まれた石があった。水難にあった人々の供養のため置かれたという説が残っている。



**④奥家住宅**  
家には天明8年(1788)の普請帖が残され、この地方の18世紀後期を代表する民家として国の重要文化財に指定されている。



**⑤古銀山**  
広島藩が度々再開を試みたが再開されなかった。吉舎は木炭の主要な生産地で、ここの木炭も大森に送られ銀精練に利用された。



**⑥下素麺屋の一里塚跡**  
1633年頃幕府は主な街道約4km毎に、塚を作り松を植えさせた。一里松は平成4年松食い虫のため枯れ、今は切り株が残っている。



**⑦歴史的街並み**  
吉舎は街道の宿場として栄えたが、その面影を残す街並みが吉舎町市街の各所に残っている。



**⑧中山一里塚跡**  
吉舎と甲奴の境界となる峠の頂付近に一里塚の跡が残っていたが、現在、塚は藪に覆われ見えにくくなっている。



**⑨宇賀の辻堂**  
地元では、郷地蔵(ごうじぞう)さんと呼ばれている。銀の道はこの先で「笠岡ルート」と「尾道ルート」に別れる。



**⑩須佐神社**  
1517年の創建で県重要文化財。ここの大社奥は台車付き高さ3.4m幅2.1m重さ1.5tで、「おごっさん」と呼ばれている。



**⑪下野の道標**  
総領町に向かう道との交差点に残っていたと思われる道標。近年の道路改良で新しく作り直され、商店の門先に置かれている。



**凡例**

	銀の道(車)※1		車輛迂回路
	銀の道(歩)※2		おもな施設
	道標・石碑		駐車場・駐車可能場所
	常夜灯		トイレ
	地蔵・石仏		トイレ(車イス可)
	辻堂・祠		レストラン・食堂

※1 銀の道に最も近いと思われる車道(道路幅も狭く通行困難な部分あり)。※2 銀の道と思われる小道で、道路幅が非常に狭い車道を含む(家屋の密集や草木の繁茂などで、踏破できない場所もあり)。

「銀の道」の大部分は、地域の皆さんの生活道路です。  
交通法規を守り、迷惑運転にならない様、注意して運転して下さい。